

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



互励会テイクアウトイベント



重症心身障がい児(者)領域のサービス提供について

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、当院の重症心身障がい児(者)の方達に対するサービス内容も著しく縮小せざるを得ない状況が続いていましたが、ようやく元の状態へ向けて歩みを進めています。

元々、当院では、長期入所、短期入所、通所を3本柱としてサービス提供を行ってきましたが、長期入所に於いては面会の制限が緩和され、条件はありながらも直接面会も可能となりました。但し、入所者の集団での外出行事・外泊、院内でのご家族を交えての大規模行事などはまだ出来ておらず、今後の課題となっています。短期入所についても、幾つかの条件を踏まえながら受け入れ態勢を整備しており、今年度はその利用日数が著明に増加しました。通所については1日の人数制限やスペースの利用の仕方などの点で、まだ以前の状態までには至っていませんが、安定した運営が実施出来ています。また、今年度から新規事業として、居宅訪問型児童発達支援を開始する予定にしています。

少しずつではありますが、これからも、より一層の充実したサービス提供を目指して前進していきたいと思っています。



診療部長
川満 徹

緩和ケアへの取り組み

5階病棟看護師 千利濱 麻美

5階病棟では様々な疾患や障害を併せ持ち、疾患の治癒を望めない状況でも、その人らしい日々を過ごせるよう終末期におけるQOLに焦点を合わせた看護の提供をめざして日々取り組んでいます。

患者さんの苦痛は身体的なものに限らず、精神的な苦痛も伴います。言葉を発することができない方でもその方に合ったツールを用い、表情や行動・生理的反応など多面的にとらえて苦痛の評価を行っています。他者が苦痛を正確に評価することは難しいですが、看護チームに加え多職種を交えてのカンファレンスを積極的に行い患者さんにとって最善の医療・ケアが提供できるように努めています。ま

た、残された時間を住み慣れたご自宅や施設で心穏やかに過ごしたいというご希望があれば、院内の多職種はもちろん、在宅診療医師、訪問看護ステーション、デイサービス、福祉器具メーカーなど、院内外の医療チームが一丸となって繋がり、協力・サポートさせていただくことも緩和ケアの一環であると考えています。患者さんとそのご家族が共に最期まで希望される生活が過ごせるよう、全力で寄り添い心を込めて看護しています。



外科の診療

外科医長 齊藤 貢



外科の診療内容は消化器の検査、外傷の処置などとなっています。当院で手術は実施していないため、手術の必要な患者さんは他院に紹介しています。術後の外来は当院に通院して頂くことも可能です。

内視鏡の機器が更新されました。

画質が良くなったのに加え、拡大観察、特殊光観察が可能で診断能力が向上しています。

当科で実施している大腸CT検査は実施方法を変更し、検査精度も向上しました。大腸内視鏡と同等ではありませんが、内視鏡検査の困難な患者さんにも適応が拡大できると思います。検査の詳細につきましてはお問い合わせ下さい。

重症心身障がい児(者)の楽そうな表情を求めて

4階病棟副看護師長 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 藤井 幸雄

重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態を重症心身障がいといい、その状態にある子どもを重症心身障がい児といい、成人した重症心身障がい児を含めて重症心身障がい児・者(以降重心児と呼ぶ)と呼びます。障害の原因は脳障害であり出生前～18歳までに受けた障害です。その中でも医療的ケアを常時必要とする重心児はさまざまな生命機能の障害を持って生まれ、特に生命を維持する根幹になる呼吸機能は脆弱で予備力が小さく、呼吸する上で様々な“息づらさ”があります。具体的には十分な呼吸運動が出来ない、空気の通り道(気道)が通りにくくなっ

ている、痰を自分で十分に出せない等が挙げられ、これらを少しでも楽にするために様々なケアを多職種でお互いの専門性を活かしながら提供しています。重心児の呼吸する力と私達のケアがうまくかみ合ったときに重心児は楽そうな表情を見せ、外界の刺激に目や耳や意識が向かい、笑顔を見せてくれることもあります。私達は、そんな表情を少しでも多く引き出せる様に、これからもかかわり続けていきます。



地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

JA福井県ケアプランセンターあい愛



当ケアプランセンターは令和4年4月、JA福井市内の3居宅が合併し、JA福井県ケアプランセンターあい愛として再スタートしました。現在主任ケアマネジャー3名を含む、計7名でご利用者ご家族の支援に当たっています。

近年個人の在り方、家族の在り方も多様化し、在宅介護の場面においても社会問題も相まって複雑化しています。引きこもり、8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー問題など、課題は多岐に渡ります。私たちケアマネジャーは、ご本人が人生の最終段階をどのように生きていきたいか、その思いを受け止め、望む暮らしを少しでも実現できるように支援しています。そして、ご本人を支えるご家族が抱える問題に対しても、寄り添い、共に悩みながらサポートしています。

そんな中であわら病院には、難病のご利用者を介護するご家族の支援として、レスパイト入院という形でお世話になっています。病気や障害、認知症があっても、自宅で暮らしたいというご本人ご家族を支えていくために、これからも介護と医療の連携をよろしくお願いいたします。



JA福井県ケアプランセンターあい愛
〒910-0068 福井市舟橋新1丁目106番地
TEL 0776-29-0116 FAX 0776-97-6030



在宅支援を振り返って思うこと

訪問看護ステーションアイリス副看護師長 在宅ケア特定認定看護師 藤代 直美

訪問看護ステーションに勤務して5年になります。振り返ると在宅療養も随分進化したように思います。特定行為看護師研修制度が始まり、数年前は予想もしなかった看護師による医療処置(気管カニューレや胃瘻チューブの交換、褥瘡の壊死部分を切除して治癒を促進する、身体観察や食事、水分の摂取状況から脱水を判断して輸液を行う)が自宅に居ながら受けられるようになったからです。アイリスでは在宅ケア特定認定看護師による医療処置が可能です。メリットとして在宅で医療処置を受けられること、いつもの訪問時間にリラックスした環境のなか処置を受けられることがあります。また褥瘡壊死部の切開は適切な時期に処置

を受ける事で、早期治癒に期待が持てます。在宅ケア特定認定看護師はかかりつけ医の指示書があり、訪問看護ステーションからのご依頼があれば、看護支援に何う事が可能です。特に神経難病患者さんは複数の訪問看護ステーションの介入が可能となるため、気管カニューレ交換や胃瘻チューブの交換、重症の褥瘡処置の支援ができます。ぜひ在宅支援に携わる病院、地域のクリニックの先生、ケアマネジャー、訪問看護ステーションの方々にご理解いただき、ご紹介いただきますようお願いいたします。



外来担当医表

(令和5年12月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 ^(第1・2・3・5) 見附 保彦 ^(第4)	野村 量平 ^(第1・3・5) 辻 俊比古 ^(第2・4)
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織 ^{(第1・3・5)*} 福岡 諒 ^{(第2・4)*}	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 ^(第2・4)
	生活習慣病			鈴木 友輔 ^(第2・4)		伊藤 和広
	老年					桑田 敦 ^(第1・3・5)
	神経			佐々木 宏仁 ^(第1・3・5)		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	伊與部 貴大				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美*			
	地域ケア	鈴木 友輔*				
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



虐待防止研修会を開催して

医療安全管理係長 細坪 美貴

当院では利用者さんの人権と尊厳を守るために、職員が虐待防止について学び、虐待に繋がる行為を防ぐ事を目的に、虐待防止研修を実施しています。昨年度まで対象者を看護師や保育士としていましたが、今年度より事務員も含めた全職員に拡大しました。全員参加できるような開催回数を増やし、WEBでも受講できるような企画しました。第1回目の研修には、看護師、保育士、医師や事務員等30名が参加しました。虐待の通報義務や身体拘束の講義の後、実際の身体拘束事例が切迫性、非代替性、一時性の3要件に該当しているか、多職種でグループワークを行いました。コロナ禍以降多職種での研修の機会が減少し、初めて顔を合わせる職員もお互い不安はありましたが、「他に方法があるのでは?」と活発な意見交換が行われました。他病棟や多職種からの意見は新鮮で、このような意見交換の場が必要だと感じました。今後、回を重ねより良い研修にしていきたいと思えます。



薬剤科便り

薬剤科 調剤主任 中山 実智恵

2023年4月、あわら病院薬剤科では待望の増員があり、薬剤師4人体制となりました。薬剤科の業務としては、内服薬・注射薬の調剤、TPN・抗がん剤の無菌調製、医薬品の調達、在庫管理、持参薬鑑別、配置薬管理、薬剤管理指導、抗菌薬のTDM、DI、COVID-19ワクチンの管理・分注などがありますが、増員によって、中でも特に薬剤管理指導業務を充実させることができるようになってきました。入院患者さんへの服薬指導・服薬支援等を行うことによって服薬アドヒアランスの向上に寄与し、また患者さんから得られた情報を医療スタッフ間で共有することによって副作用の早期発見・回避など、安心かつ安全で効果的な薬物療法を支援できるよう努めています。今後は、在宅での薬剤管理指導やポリファーマシー改善等にも貢献できるよう努めて参ります。



独立行政法人
国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1
TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
(地域医療連携室) FAX.0776-79-1261
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]
JR北陸本線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017